南山大学人類学博物館

年　　報

2009 年度

南山大学人類学博物館

巻頭言

最近、博物館に関わる新聞記事がいくつかめについた。

一つは、事業仕分けに関連して、国立科学博物館で所蔵するYS－11についてもっと公開して保存価値を高めよ、という意見がついたとのこと。同じく事業仕分けにおいて、国立美術館、国立文化財機構、国立科学博物館の事業規模の拡充が認められたことである。特に美術館において作品の購入費用が拡充されたことは、一定の評価をする向きも多い。

もっとも、「国費負担の増額なし」が前提条件だから、作品購入費用を増額したけば他を削れ、ということになるので、実質的には厳しい運営がせまられていることに変わりはない。

このことは、国が文化財の保存や収集に一定の意義を認めているわけであり、これまでの文化行政の経緯からすれば一つの転機にはなるだろう。

しかし、その一方で、朝日新聞では「文化変調」という特集を組み、そこで、公立博物館の実態を取材している。地方の公立博物館は、千葉や埼玉などで統廃合が進み、県立博物館の市町村への移譲も行われている。また、指定管理者制度についても、見直して直営に戻したり、あるいはNPOなどによって運営されたりするなど、様々な事例があることがわかる。

ただ、こうした状況を一言で言うのであれば、公立の博物館が疲弊しているのではないか、ということだ。こういう状況で、国立の博物館・美術館を好意的に評価するというのは、何かチグハグな感じがしないだろうか。どこか見ている方向が違うような気がする。

もう一つの新聞記事に、開館時間を延長して仕事帰りに利用できるようにした「夜型」博物館・美術館が増えている、というものがあった。この試みには大いに賛成である。

昨今の博物館では、博学連携として子供を対象とした事業を行うところが増えている。それはそれで結構なことだが、本来的には大人が博物館に来る、あるいは来られる環境を整えることを優先的に考えるべきであろう。なぜならば、社会を支える働く大人が博物館を利用できるような環境がないとすれば、それは到底豊かな社会とはいえないと思うからだ。子供たちのためにといえば聞こえはいいが、今こそ大人たちのための博物館を考えることが必要であると思う。そして、当面やれることとして、開館時間の延長は意味がある。だが、それとても万能ではない。都市部のように、人が昼夜を分かたず活動しているところではいいが、地方のように人の活動の中心が昼間である場合には開館時間延長は効果的ではないようだ。また、条例などの壁もある。

博物館にとって、悩ましい時代は当分続きそうだ。

2010年6月

南山大学人類学博物館

目次

１．2009 年度の人類学博物館の活動 ……1
（１）オープン・リサーチ・センターの活動 ……1
①研究会 ……2
②シンポジウム ……2
（２）教育普及活動 ……4
①展示 ……4
②講座 ……4
③講演会 ……5
④連携授業 ……5
⑤博物館実習 ……6
⑥その他 ……6
（３）調査・研究活動 ……6
①調査出張 ……6
②研究活動 ……7
（４）資料の収集・整備と利用 ……8
①受贈資料 ……8
②資料修復 ……8
③館内の燻蒸 ……8
④購入図書 ……8
⑤受贈図書数 ……8
⑥資料貸出 ……8
⑦取材・調査のための来館者一覧 ……9
⑧撮影・刊行物への掲載 ……10
⑨当館紹介刊行物一覧 ……10
⑩大須二子山古墳出土資料の文化財指定 ……10
（５）出版活動 ……11
２．組織と運営 ……12
（１）組織 ……12
（２）開館・入館者実績 ……12
①開館日数・入館者数 ……12
②入館団体内訳 ……12
３．規程 ……15

１．2009 年度の人類学博物館の活動

（1）オープン・リサーチ・センターの活動

オープン・リサーチ・センターの活動も 4 年目を終えた。今年度は、これまでの研究の継続と最終年次における研究のとりまとめの準備ということが、活動の二本柱となった。個別の活動については、以下のとおりである。

【博物館部会】

展示・収蔵環境調査の一環として、収蔵環境について、年間を通して温湿度の計測を行い、また、館内に設けられた密閉空間において、吸湿材の性能実験をあわせて行った。

さらに、収蔵庫内のカビの胞子の浮遊状況を調べるため、収蔵庫内の空気のサンプリングを行い、その結果を受けて酵素殺菌フィルターを取り付けた空気清浄機を一ヶ月間稼動させることで、カビ胞子の除去状況を測定した。

【情報部会】

博物館資料のうち、考古資料についてのデータベースの記載を継続的に行っている。

【歴史部会】

2009 年 8 月に、領塚・永井両氏によるイギリスでのグロート神父関係資料の調査が行われた。グロート神父の博士論文のコピーが入手できたことは大きな成果である。

年明けの 1 月にはその成果報告が行われ、8 月の調査時にセインズベリーに滞在されていた立命館大学の矢野健一氏にもグロート神父らによる縄文文化研究について報告をしていただいた。

【旧石器部会】

マリンガー神父のコレクションの図化作業を継続して行っている。

また、昨年度のフランスでの調査研究の成果報告がなされた。このときには、首都大学東京名誉教授の小野昭氏によって、近年のヨーロッパにおける旧石器時代人類に関する研究状況が報告された。

【縄文部会】

愛知県保美貝塚出土資料の整理作業を継続して行っている。

また、今回の作業を通じて明らかになった点、新たに浮上した問題点に関する報告と問題提起の研究会を実施している。

【弥生部会】

愛知県高蔵遺跡出土資料（土器）の図化作業が終了した。

その作業成果の報告と、高蔵遺跡を多角的に検討するためのシンポジウムが開催されている。

【東アジア部会】

今年度からは、研究の主眼を愛知県内の古墳の GIS データの整備に移した。そのための空中写真の購入と幾何補正、また実際にいくつかの古墳をまわりながらの地形観察と GPS データの測定等を行っている。

また、GIS の考古学への応用に関する研究会を開催している。

【人類学部会】

8 月に森部一氏を中心として、タイの山地民に関する現地調査を行い、その成果報告を行なった。

また、1 月にはヨーロッパ人との接触によってパプアニューギニアの社会がどのように変容したのかを考える研究会を行っている。

① 研究会

１）弥生部会研究会「伊勢湾周辺の弥生前期の社会」
日時：2009 年 6 月 21 日（日） 14:00～17:30
会場：名古屋キャンパス人類学博物館学習室
基調報告：川添和暁氏（愛知県埋蔵文化財センター） 「遺跡形成過程の検討とその意義」
コメント 1：藤田英博氏（岐阜県文化財保護センター）
コメント 2：岩瀬彰利氏（豊橋市教育委員会）
コメント 3：吉田泰幸氏（南山大学人類学博物館）
参加者：8 名

２）博物館部会公開研究会「大学博物館を考える」
日時：2009 年 11 月 14 日（土） 10:00～17:00
会場：名古屋キャンパス J 棟 J31 教室
基調報告：矢島國雄氏（明治大学）「大学博物館の在り方」
報告 1：黒沢 浩氏（南山大学） 「南山大学人類学博物館リニューアル計画」
報告 2：宮﨑健司氏（大谷大学博物館）「様々な大学博物館 大谷大学博物館」
報告 3：外山 徹氏（明治大学博物館）「様々な大学博物館 明治大学博物館」
報告 4：内川隆志氏（國學院大學考古学資料館）
「様々な大学博物館 國學院大學伝統文化リサーチセンター」
参加者：22 名

３）人類学部会公開研究会「タイ西北部ユーミエン（ヤオ）族社会の諸変化と現状」
日時：2009 年 12 月 12 日（土） 13:00～17:00
会場：名古屋キャンパス D 棟 D22 教室
報告 1：森部 一氏（南山大学）
「チェンライ県の Padua 村とパヤオ県の Pangkha 村の教育と儀礼」
報告 2：竹野富之氏（東海学園大学）「タイ北部ユーミエン族の生活環境の変化について」
基調報告：増野高司氏（国立民族学博物館）
「ヤオ族の山村における農具からみた社会変化 ― パヤオ県チェンカム郡における 2003 年～2009 年の調査から ―」
参加者：8 名

４）縄紋部会公開研究会「保美貝塚出土資料の再整理から縄文晩期研究を展望する」
日時：2009 年 12 月 19 日（土） 11:00～16:30
会場：名古屋キャンパス B 棟 B44 教室
基調報告：大塚達朗氏（南山大学）
「保美貝塚の安行 3a 式と大洞Ｂ式：晩年編年の要諦として」
報告 1：松本泰典氏（豊橋市美術博物館）「保美型貝塚と無文精製壷」
報告 2：川添和暁氏（愛知県埋蔵文化財センター）「石器・骨格器の新所見」
報告 3：長田友也氏（南山大学）「石剣・石刀の新所見」

松本報告に対するコメント：坂口　隆氏（二友組）
コメント：豆谷和之氏（田原本町教育委員会）
参加者：37 名

５）歴史部会公開研究会「G.グロート神父の縄文文化研究とそのコレクション
～調査資料が収集された背景を探る～」
日時：2009 年 1 月 23 日(土)　13:00～16:40
会場：名古屋キャンパス　B 棟　B44 教室
報告 1：永井英治氏（南山大学）「日本ギャラリーの構成 －異文化としての日本文化－」
報告 2：領塚正浩氏（市川考古博物館）「人類学博物館のコレクションについて」
報告 3：矢野健一氏（立命館大学）「G. グロート神父と縄文文化研究」
報告 4：領塚正浩氏（市川考古博物館）「G. グロート神父の博士論文と縄文時代観」
参加者：11 名

６）人類学部会公開研究会「ヨーロッパとパプアニューギニアの遭遇」
日時：2010 年 1 月 30 日(土)　13:00～17:00
会場：名古屋キャンパス　B 棟　B47 教室
報告 1：紙村　徹氏（神戸市看護大学）
「パプアニューギニア東セピック州セピック川上流ワシクク丘陵クォマ族における伝統的長老制からの政治社会的流動化とマネー・カルトの到来」
報告 2：塩田光喜氏（アジア経済研究所）「戦士共同体と多国籍企業」
報告 3：後藤　明氏（南山大学）「オセアニア博物館展示資料収集時の多様な脈絡」
コメント 1：早川正一氏（南山大学名誉教授）
コメント 2：吉田裕彦氏（天理大学附属天理参考館）
参加者：10 名

７）東アジア部会研究会「考古学と空間情報
―東アジアの墳丘墓・遺跡を事例としたＧＩＳの応用（１）」
日時：2010 年 2 月 19 日(金)　13:00～17:00
会場：名古屋キャンパス　B 棟　B47 教室
報告 1：茶谷　満氏（鳥取県埋蔵文化財センター）「洛陽墳墓群の空間分析」
報告 2：新納　泉氏（岡山大学大学院）「空間情報考古学の試み－ミクロからマクロまで－」
コメント：渡部展也氏（中部大学）
「地理情報科学と考古学 －中国関中平原におけるＧＩＳの活用事例」
参加者：6 名

② シンポジウム
１）弥生部会シンポジウム「伊勢湾周辺の弥生前期の社会」
日時・会場
2009 年 11 月 28 日（土）　13:00～17:30　名古屋キャンパス　M 棟　MB1 教室

2009 年 11 月 29 日（日）　9:30～17:00　名古屋キャンパス　M 棟　MB21 教室
基調報告：金子守江氏（京都大学）
「土器のかたち：エチオピアにおける土器つくりと利用を事例に」
報告 1：村木　誠氏（名古屋市見晴台考古資料館）「高蔵遺跡のこれまでの調査」
報告 2：永井宏幸氏（愛知県埋蔵文化財センター）「高蔵遺跡の成立」
報告 3：宮腰健司氏（愛知県埋蔵文化財センター）「高蔵遺跡夜寒地点ＳＤ04 について」
報告 4：松本泰典氏（豊橋市教育委員会）「突帯文系土器から条痕文系土器」
報告 5：藤田英博氏（岐阜県文化財保護センター）「阿弥陀堂式の再検討」
報告 6：川添和暁氏（愛知県埋蔵文化財センター）
「貝塚形成の見られない遺跡における形成過程について－東海地域の縄文時代晩期を中心に」
報告 7：纐纈　茂氏（名古屋市見晴台考古資料館）
「縄文晩期の遺跡形成 沿岸部 －玉ノ井遺跡の調査から－」
報告 8：石黒立人氏（愛知県埋蔵文化財センター）「弥生前期の遺跡形成　内陸部」
報告 9：岩瀬彰利氏（豊橋市教育委員会）「弥生前期の遺跡形成　沿岸部」
コメント 1：長田友也氏（南山大学）
コメント 2：豆谷和之氏（田原本町教育委員会）
参加者：49 名

２）博物館部会シンポジウム「小さな博物館　It’s a Small Museum」
日時：2010 年 1 月 9 日（土）　10：30～17：00
会場：名古屋キャンパス　B 棟　B22 教室
基調報告：里見親幸氏（丹青研究所）「小さな博物館づくり」
報告 1：川合　剛氏（名古屋市博物館）「手作りする展示の文字情報」
報告 2:アッセマ庸代氏(南山大学)「小さな博物館という世界　Small is beautiful and familial
－CHA 時空間和法と博物観－」
報告 3：小池富雄氏（徳川美術館）「誰にでもできる、低コストの広報と教育普及」
報告 4：小林宜文氏（丹青研究所）「収蔵」
参加者：26 名

３）旧石器部会シンポジウム
「マリンガーコレクションからみたヨーロッパと日本の先史考古学の世界」
日時：2009 年 11 月 21 日（土）　10：30～16：30
会場：名古屋キャンパス B 棟　B21 教室
報告 1：白石浩之氏（愛知学院大学）「マリンガーコレクションの実測化に伴う進捗状況」
報告 2：白石浩之氏（愛知学院大学）「フランス旧石器時代の遺跡」
報告 3：川合　剛氏（名古屋市博物館）
「フランスの博物館　マリンガー・コレクションからの視点で」
報告 4：川合　剛氏（名古屋市博物館）「マリンガー神父とマリンガーコレクション」
報告 5：小野　昭氏（東京都立大学名誉教授）
「ヨーロッパにおける旧人・新人の交替劇：ドイツの事例を中心にして」

報告 6：白石浩之氏（愛知学院大学）
「マリンガー神父の旧石器時代観と日本の旧石器時代研究」
参加者：22 名

（２）教育普及活動

①　展示

１）特別展示
『世界のなかの道具になるタネ―道具の人類学ではなく、道具になることの人類学―』
会期：9 月 25 日（金）～11 月 21 日（土）
会場：名古屋キャンパス G 棟　人類学博物館ロビー
期間中の入館者：1,502 名

２）本学博物館実習生による企画展示
第 1 期：11 月 27 日（金）～12 月 2 日（水）
・『夢と現実～昭和の家庭事情～』
・『タイ山地民のクローゼット～1970 年代と現在～』
第 2 期：12 月 11 日（金）～12 月 16 日（水）
・『美のはじまり』
・『精霊の家と神話―ニューギニアの信仰の形』
会場：名古屋キャンパス G 棟　人類学博物館第二展示室・人類学博物館ロビー
期間中の入館者：332 名

３）人類文化学科　後藤　明教授（環太平洋神話研究会世話人）による、環太平洋神話研究会シンポジウム「モンゴロイドの宇宙」関連企画展
『星空人類学 in 南山』
会期：7 月 5 日（日）
会場：名古屋キャンパス G 棟　人類学博物館ロビー

②　講座

博物館の本来的な機能である普及事業の一環として、本学学生を含めた一般の方々を対象として、博物館講座とフィールドワークを開催した。

博物館講座は当館に収蔵されているユニークかつ豊富な資料を前に、専門的研究者の解説を聞きながら、資料と博物館に対する理解を深めていただくことを目的としている。2009 年度は、「技術の人類学」をテーマに、加工と伝達という社会的側面に着目しながら、通文化的資料を有する当館の特徴を活かした内容を実施した。高校生 2 名を含め、17 名の申し込みがあった。

フィールドワークは東海地方の考古学的な遺跡を現地で観察し、実感していただけるような機会を提供することを目的としている。観察する遺跡は、当館所蔵資料と関係の深い遺跡を中心に設定しており、現地で遺跡を観察することによって、当館の展示のより深い理解へと繋げる契機ともなっている。定員 10 名に対して 15 名の申し込みがあった。

１）2009 年度博物館講座『技術の人類学』

第 1 回　6 月 14 日（土）大沼　克彦　氏（国士舘大学教授）　「石器技術の発展」
第 2 回　6 月 28 日（土）大塚　達朗　氏　（南山大学教授）
「縄紋人の器用仕事がつくるネットワーク」
第 3 回　7 月 12 日（土）金子　守恵　氏（南山大学非常勤講師）
「土器つくりの不思議：エチオピアにおける土器の野焼き」
第 4 回　7 月 26 日（土）岩城　正夫　氏（和光大学名誉教授、古代発火法検定協会理事長）
「人類と火―古代発火法とその体験学習を手掛かりに―」

２）2009 年度フィールドワーク『東海の考古遺跡を歩く』
第 1 回　10 月 31 日（土）事前指導　講師：黒沢　浩氏（南山大学准教授）
第 2 回　11 月 8 日（日）木曽川右岸の古墳群　現地講師：中井正幸氏（大垣市教育委員会）
第 3 回　11 月 15 日（日）安城市の遺跡　現地講師：西島庸介氏（安城市歴史博物館）
第 4 回　11 月 29 日（日）三河山間部の遺跡　現地講師：高橋健太郎氏（豊田市教育委員会）
第 5 回　12 月 5 日（土）事後指導　講師：黒沢　浩氏
申込者数：15 名

③　講演会

博物館スタッフ・教職員・大学院生等を対象として、博物館の活動や運営に対する最新情報、人類学博物館に対するアドバイスをセミナーにおいていただいたが、同一講師による公開講演会を同日に開催した。講演会は学外の方々も対象に含め、博物館にとって最も重要な活動内容である「展示」という行為の本質について、問題提起をしていただいた。
日時：5 月 21 日（木）
講師：川口幸也氏（国立民族学博物館　文化資源研究センター　准教授）
18：00~19:30　公開講演会『ミュージアムの時代―私たちの居場所』
会場：名古屋キャンパス　J 棟特別合同研究室
参加者：31 名

④　連携授業

人類学博物館と名城大学附属高等学校との学習連携が始まって、今年で４年目を迎える。

今年度は、2 年生を対象とした「異文化の理解」・「総合学習の時間」の授業の中で、人類学博物館収蔵の民族資料・考古資料を使い、異文化や歴史に対する関心と、理解するための方法を身につけることを目標とした。そのため、実物を触ったり、観察したりする機会はもとより、自分たちの手で自分たちのテーマを掘り下げていく「調べ学習」にも重点をおいて指導をおこなった。

また、学習目標としては博物館資料を使って説明用のキットを制作し、それを使って各自が選択したテーマに関する発表をおこなわせた。成果を多くの人に評価してもらう機会を作ると同時に、プレゼンテーションの難しさや楽しさを学ぶ機会を提供した。

連携授業は以下の日程でおこなった。
10 月 13 日（火）博物館見学：どんなものがあるか？班分け
10 月 20 日（火）授業①　ニューギニアについて　講師：後藤　明氏（南山大学教授）

モノの見方、調べ方　講師：黒沢　浩氏（南山大学准教授）
11 月 10 日（火）授業②　タイ山地民について　講師：森部　一氏（南山大学教授）
調べた事をまとめる　講師：黒沢　浩氏（南山大学准教授）
11 月 17 日（火）授業③　考古学について　講師：黒沢　浩氏（南山大学准教授）
11 月 24 日（火）博物館見学･･･実物を手にとって見る
12 月　8 日（火）成果発表
12 月 15 日（火）予備日

⑤　博物館実習

他大学からの学外博物館実習生受入れを実施しており、本年度は愛知大学から 1 名、尾道大学から 1 名を受入れた。

⑥　その他

1）名古屋市緑生涯学習センターより、定期講座の依頼があったので受け入れた。
日時：11 月 26 日（木）13:30～15：30
会場：人類学博物館
テーマ：『＜なごや学＞知的な午後のミュージアム散策』
第 4 回「南山大学人類学博物館を訪ねて」
参加者：30 名

2）愛知県図書館研究会高校部会尾西北地区研究会より、当館と本学図書館に対し見学と講演の依頼があったので受け入れた。
日時：12 月 1 日（火）　13：30～16：30
会場：南山大学　図書館・人類学博物館
テーマ：『大学図書館・博物館に学ぶ』
参加者：45 名

（3）調査・研究活動

①　調査出張

1）愛知県博物館協会総会
日時：6 月 18 日（木）
内容：朝日新聞社学芸部　記者　宮代栄一氏の講演会「記者の目から見た博物館」への参加。
出張者：吉田泰幸

2）京都大学総合博物館レクチャー、公開シンポジウム
日時 11 月 27 日（金）
内容：レクチャー「情報データベースを『活かす』ということ」、公開シンポジウム「社会連携コミュニケーションの成果をいかに評価するか」、への参加
出張者：木田　歩

３）愛知県博物館協会研修
日時：2 月 5 日（金）
内容：教育・普及部門研修会「ワークシートの作成・活用術」への参加。
出張者：木田　歩

４）愛知県博物館協会研修
日時：2 月 18 日（木）
内容：部門別研修会「事業としての調査・研究　－博物館のあるべき姿を探る－」への参加。
出張者：長尾美里

②　研究活動
博物館セミナー
日時：5 月 21 日（木）
講師：川口幸也氏（国立民族学博物館　文化資源研究センター　准教授）
内容：　『展示という病―その暴力と狂気』
会場：人類学博物館学習室

（４）資料の収集・整備と利用
①　受贈資料
1. 梅鉢勇夫氏より、土地建物登記書類 1 点。
2. クネヒト・ペトロ氏より、竹製ペーパーナイフ 3 点。

②　資料修復
許皇券牒 1 点、十八神像 18 点。

③　館内の燻蒸
8 月 22 日（土）実施

④　購入図書
69 冊

⑤　受贈図書数

発掘調査報告書	一般図書・紀要・年報・図録・研究報告等	たより類
976	513	246

⑥　資料貸出

貸出先	資料名・点数	貸出期間	目的
文化庁美術学芸課	茨城県花輪台貝塚出土土偶	2009 年 7 月 22 日～2010 年 3 月 26 日	大英博物館･東京国立博物館「土偶展」にて展示

美濃加茂市民ミュージアム	北野遺跡トレンチ図他 10 点、写真資料 3 点	2009 年 7 月 13 日～9 月 11 日	「なつやすみ歴史探険―考古学にふれる―」にて展示
北名古屋市歴史民俗資料館	ガスかまど 1 式	2009 年 6 月下旬～10 月上旬	特別展「昭和のキッチン・台所再見」にて展示
ラテンアメリカ研究センター	ペルーの民族や地域に関する写真約 20 点	2009 年 7 月 26 日	「フィエスタ・ペルアナ神戸 2009」にて展示
名古屋市博物館	名古屋市民会館（開館記念）絵葉書 1 組	2009 年 12 月 10 日～2010 年 3 月 7 日	特別展「名古屋 400 年のあゆみ」にて展示
大阪府立近つ飛鳥博物館	大須二子山古墳出土資料 16 点	2010 年 4 月 24 日～2010 年 6 月 7 日	特別展「継体大王の時代―百舌鳥・古市古墳群の終焉と新時代の幕開け―」にて展示
豊田市郷土資料館	市塚古墳出土資料 4 点、調査アルバム	2010 年 3 月 1 日～2010 年 7 月 31 日	新修豊田市史「弥生・古墳時代資料編」作成のため
名古屋大学博物館	保美貝塚出土動物骨・人骨 12 点	2010 年 3 月 22 日～2010 年 7 月 20 日	特別展　名古屋大学博物館・南山大学人類学博物館合同企画「縄文のタイムカプセル―貝塚―」
	縄文式土器 13 点	2010 年 3 月 15 日～2010 年 7 月 20 日	

⑦取材・調査のための来館者一覧

来館者名	資料名・点数	実施日
首都大学	打製石斧 9 点	2009 年 5 月 22 日
美濃加茂市民ミュージアム	林魁一コレクション 岐阜県内発掘調査遺跡出土遺物及び調査記録	2009 年 5 月 27 日
国立歴史民俗博物館	花輪台貝塚出土土偶 1 点 フランス・ロージュリー＝バス遺構出土のヴィーナス（複製品）1 点	2009 年 6 月 25 日
東京都教育委員会	稲荷台遺跡出土資料	2010 年 1 月 12 日
大阪府近つ飛鳥博物館	大須二子山古墳出土資料	2010 年 1 月 27 日
熊本大学埋蔵文化財調査室	保見貝塚出土石製玉類 9 点	2010 年 3 月 2 日
朝日新聞社	大須二子山古墳出土馬具　群馬県出土辻金具杏葉	2010 年 2 月 16 日
田原市教育委員会	北屋敷貝塚出土の石器及び土器	2010 年 2 月 22 日

⑧　撮影・他機関刊行物等への掲載

機関名	資料名	刊行物名等	刊行予定
株式会社アム・プロモーション	羽状縄文系土器 2 点	『未完成考古学叢書』7	2009 年 3 月 27 日
愛知県総務部	蓮池 2 号墳出土家形石棺(蔵骨器)長頸瓶集合写真	『愛知県史　資料編』4	2009 年度
東京法令出版株式会社	二ツ木貝塚出土 平底土器 1 点	『グラフィックワイド歴史』	2010 年 1 月 10 日
勉誠出版株式会社	上智大学西北タイ歴史・文化調査団撮影写真 2 点	『人と水』第一巻	2009 年 12 月
元興寺文化財研究所保存科学センター	大須二子山古墳出土挂甲	『伝統衣生活研究　第 4』	
開隆堂出版株式会社	二ツ木貝塚出土 深鉢形土器 1 点	『美術　表現と鑑賞』 2010 年改訂版	2010 年
青森県環境生活部	小向遺跡出土土偶 1 点	『青森県史　文化財編美術工芸』	2010 年 3 月
株式会社ぎょうせい	花輪台貝塚出土土偶 入海貝塚板状土偶	『土偶とその周辺 I 』	2010 年 2 月 15 日
名古屋大学博物館	縄文土器（姥山 2・蝦島・堀之内）、シカ下顎骨（保美貝塚出土）	特別展　「縄文のタイムカプセル―貝塚―」	2010 年 2 月 23 日
名古屋市見晴台考古資料館	「山の田古墳」6,7,11,12,13,14,15 の写真	『山の田古墳発掘調査報告書』	2010 年 3 月
有限会社樹林舎	大須二子山古墳出土画文帯四神四獣鏡 1 点	『地籍図で探る古墳の姿（尾張編）―塚・古墳データ一覧―』	2010 年 3 月
愛知県総務部	蓮池 2 号墳	「愛知県史資料編 4 考古 4 飛鳥～平安」	2010 年 3 月 31 日

⑨　当館紹介刊行物一覧

機関名	内容	刊行物名
株式会社ぎょうせい	紹介文・写真	『全国博物館総覧』
朝日学生新聞社	紹介文・写真	『朝日小学生新聞』2009 年 5 月刊行

⑩　大須二子山古墳出土資料の文化財指定

大須二子山古墳は名古屋市中区門前町に所在していた古墳で、戦後すぐの道路建設工事、その後の大須球場建設、スケートリンク建設という相次ぐ土木工事のため、調査されないまま滅失した。その出土品は名古屋市と郷土史家によって回収され、それらの多くが南山大学人類学博物館の前身の組織である、南山大学人類学民族学研究所に所蔵されることになった。

2008 年、名古屋市文化財保護条例の規程に基づき、名古屋市教育委員会に大須二子山古墳出土の資料（46 件 105 点）の文化財指定を求める申請を提出した。そして本年度、29 件 120 点が名古屋市指定有形文化財（指定番号　第 120 号）に 9 月 2 日付けで指定された。

（５）出版活動

1.『南山大学人類学博物館紀要』第 28 号
2.『南山大学人類学博物館年報　2009 年度』
3.『南山大学人類学博物館オープン・リサーチ・センター　2009 年度年次報告書』
4.『南山大学人類学博物館オープン・リサーチ・センター　2009 年度年次報告書　付編　研究会シンポジウム資料』

２．組織と運営

（１）組織

１）職員

館長	青木　清	（副学長（教学担当）／法学部教授）
担当教員	黒沢　浩	（人文学部人類文化学科准教授）
特別嘱託職員	木田　歩	
	吉田泰幸	（2009 年 11 月 30 日退職）
	長尾美里	（2010 年 1 月 1 日着任）
臨時職員	伊東亜紀	（2009 年 4 月 1 日着任）
	福島幸絵	（2009 年 9 月 17 日退職）
	手塚朋子	（2009 年 9 月 21 日着任）

２）博物館運営委員会

委員長	黒沢　浩	（人文学部准教授）
委員	西江清高	（博物館学芸員養成課程委員会委員長）
	加藤隆浩	（外国語学部教授）
	大塚達朗	（人文学部教授）
	渡部森哉	（人文学部講師）
	東　誠	（教育・研究支援事務室長）

３）資料評価委員会

委員長	大塚達朗	（人文学部教授）
委員	加藤隆浩	（外国語学部教授）
	野口博史	（総合政策学部准教授）

２）開館・入館者実績

①開館日数・入館者数

開館日数	入館者数（授業以外）	団体数	団体人数
277	4,505	59	3,333

②入館団体内訳

・大学見学

日付	団体名	人数	担当課室
5 月 8 日	愛知県立岩倉総合高校	31	入試課
5 月 12 日	愛知県立一色高校	38	入試課
5 月 13 日	麗澤瑞浪高校	37	入試課
5 月 14 日	美濃加茂高校	98	入試課
5 月 28 日	愛知県立豊田東高校	44	入試課
5 月 28 日	愛知県立安城南高校	3	入試課
6 月 2 日	南山国際高校保護者	25	入試課
6 月 2 日	愛知県立新城東高校	57	入試課
6 月 3 日	名古屋大学	40	入試課

6 月 4 日	愛知工業大学名電高校	28	入試課
6 月 11 日	岐阜県立加納高校保護者	78	入試課
6 月 13 日	愛知県立安城高校保護者	55	入試課
6 月 18 日	愛知県立南陽高校	40	入試課
6 月 18 日	岐阜県立加茂高校保護者	29	入試課
6 月 20 日	聖カピタニオ女子高校保護者	104	入試課
7 月 2 日	岐阜県立済美高校保護者	27	入試課
7 月 6 日	愛知県立御津高校	57	入試課
9 月 29 日	長野県飯田風越学校	45	入試課
10 月 2 日	岐阜県立多治見高校	123	入試課
10 月 5 日	愛知県立高浜高校	9	入試課
10 月 9 日	三重県立川越高校保護者	49	入試課
10 月 16 日	滋賀県立虎姫高校	139	入試課
10 月 17 日	学校法人津田学園保護者	32	入試課
10 月 20 日	愛知県立杏和高等学校	52	入試課
10 月 21 日	岐阜県立大垣東高校	53	入試課
10 月 23 日	愛知県立津島高校	50	入試課
10 月 27 日	東邦高校保護者	50	入試課
10 月 28 日	静岡県立浜松南高校	22	入試課
11 月 9 日	静岡県立焼津中央高校保護者	25	入試課
11 月 9 日	南山高校男子部保護者	30	入試課
11 月 11 日	岐阜県立各務原西高校	94	入試課
11 月 16 日	静岡県立島田高校	103	入試課
11 月 16 日	南山高校女子部保護者	25	入試課
11 月 20 日	愛知県立春日井西高校	27	入試課
12 月 5 日	三重県立桑名高校	69	入試課
12 月 8 日	岐阜県立瑞浪高校	41	入試課

・大学行事

日付	行事名	人数
7 月 19 日	オープンキャンパス	817
9 月 26 日	父母のつどい	123
10 月 13 日	体験入学会	5
3 月 13 日	保護者のためのオープンキャンパス	103

・大学見学以外の団体

日付	団体名	人数
5 月 12 日	名古屋大学	16
5 月 20 日	四日市市市立山手中学校	22

6 月 3 日	名古屋大学	40
6 月 6 日	博物館講座	15
9 月 25 日	京都府立大学	8
10 月 22 日	名古屋大学	12
10 月 23 日	北名古屋市歴史民俗資料館公開講座見学会	27
10 月 27 日	名古屋老人クラブ連合会＋日本セカンドライフ協会	72
10 月 29 日	愛知県江南市立宮田中学校	6
11 月 24 日～28 日	名古屋大学	22
11 月 26 日	名古屋市緑区生涯学習センター	30
11 月 27 日	名古屋市昭和区生涯学習センター	35
12 月 1 日	愛知県図書研究会	45
12 月 15 日	健笑会	25
1 月 27 日	名古屋市立東港中学校	5
1 月 28 日	歩いて知ろう会	46
1 月 29 日	名古屋市立鳴海中学校	5
2 月 3 日	阿久比町立阿久比中学校	3
2 月 4 日	名古屋市立名南中学校	5
3 月 6 日	静岡県浜松大平台高校	12
3 月 12 日	名古屋市立志段味中学校	5

３．規程

(1) 南山大学人類学博物館規程

（目　的）

第１条　南山大学学則第 44 条の 2 にもとづき、本学に南山大学人類学博物館（以下「博物館」という。）を置く。

②　博物館は、「人類学（文化資源学、考古学、民俗学および民族学を含む。）」（以下「人類学」という。）に関する資料の収集、調査、解析、収蔵、管理、保存、展示、公開などを行ない、本学の学生、職員および社会の利用に供し、教育・研究に資することを目的とする。

③　博物館の組織および運営については、この規程の定めるところによる。

（事　業）

第２条　前条第 2 項の目的を達成するため、博物館は、次の各号に掲げる事業を行う。

1　人類学に係る調査、収集、保存、管理および解析

2　人類学の展示および公開

3　人類学に関する情報提供

4　人類学に関する教育研究の支援

5　博物館所蔵資料を利用した生涯学習の企画および運営

6　博物館および博物館に従事する職員の資質向上に寄与する学芸員の養成

（館　長）

第３条 博物館に館長を置く。館長は副学長（教学担当）とする。

②　館長は、博物館の事業を統轄し、博物館を代表する。

（担当教員）

第４条　博物館に博物館担当教育職員（以下「担当教員」という。）を置く。

②　担当教員は、博物館活動の企画・運営に従事する。

③　担当教員は、学長が指名する候補者について、大学評議会の承認を得て委嘱する。

（運営委員会）

第５条　博物館の運営に関する重要事項を協議し、諸事全般を決定する機関として南山大学人類学博物館運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

②　運営委員会に関する規程は、別に定める。

（資料評価委員会）

第５条の２　第 2 条第 1 項第 1 号に定める収集事業を適正に遂行するために、南山大学人類学博物館資料評価委員会（以下「資料評価委員会」という。）を置く。

②　資料評価委員会に関する規程は、別に定める。

（規程の改正）

第６条　この規程の改正は、大学評議会の承認を得なければならない。

（雑　則）

第７条　この規程に定めるもののほか、博物館の運営について必要な事項は、運営委員会の議を経て、館長が別に定める。

附　則

この規程は、2005 年 4 月 1 日から施行する。

附　則

この規程の改正は、2006 年 7 月 1 日から施行する。

（２）南山大学人類学博物館運営委員会規程

（目　的）

第１条　南山大学人類学博物館運営委員会（以下「委員会」という。）は、南山大学人類学博物館規程第 5 条にもとづき、南山大学人類学博物館（以下「博物館」という。）の運営に関する重要事項を協議し、諸事全般を決定することを目的とする。

（組　織）

第２条　委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

1　博物館担当教育職員（以下「担当教員」という。）

2　博物館学芸員養成課程委員会委員長

3　学長より指名された者若干名

②　委員は、大学評議会の承認を経て、学長が委嘱する。

③　委員の任期は、2 年とし、再任を妨げない。ただし、後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（所掌事項）

第３条　委員会は、次の各号に掲げる事項を所掌する。

1　博物館の予算（案）および決算（案）に関する事項

2　博物館資料の収集選択に関する事項

3　博物館関係規程の制定または改廃に関する事項

4　博物館の事業に関する事項

5　その他博物館の管理運営に関する重要事項

（議事運営）

第４条　委員会に委員長を置き、担当教員をもってあてる。

②　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

③　委員長に支障のあるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。

④　委員会は、特に定めのある場合のほか、委員の過半数の出席をもって成立し、出席者の過半数をもって議決する。

⑤　委員会は、必要があるときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

（事　務）

第５条　委員会の事務は、教育・研究支援事務室が担当する。

（規定の改正）

第６条　この規定の改正は、大学評議会の承認を得なければならない。

（雑　則）

第７条　この規程に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、委員会が別に定める。

附　則

この規程は、2005 年 4 月 1 日から施行する。

附　則

この規程の改正は、2006 年 7 月 1 日から施行する。

（３）南山大学人類学博物館資料評価委員会規程

（目　的）

第１条　南山大学人類学博物館資料評価委員会（以下「委員会」という。）は、南山大学人類学博物館規程第 5 条の 2 にもとづき、南山大学人類学博物館（以下「博物館」という。）において行なう博物館資料の収集に関する事項を協議し、決定することを目的とする。

（組　織）

第２条　委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

1　南山大学人類学博物館運営委員会委員 2 名

2　博物館長より指名された者若干名

②　委員は、大学評議会の承認を得て、学長が委嘱する。

③　委員の任期は、2 年とし、再任を妨げない。ただし、後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（所掌事項）

第３条　委員会は、博物館資料の寄贈の申入れについて、南山大学人類学博物館運営委員会の諮問に基づき、その可否を審議、決定する。

（議事運営）

第４条　委員会に委員長を置き、委員の互選により選出する。

②　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

③　委員長に支障のあるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。

④　委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、出席者の過半数をもって議決する。

⑤　委員会は、必要があるときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

（事　務）

第５条　委員会の事務は、教育・研究支援事務室が担当する。

（規程の改正）

第６条　この規程の改正は、大学評議会の承認を得なければならない。

（雑　則）

第７条　この規程に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、委員会が別に定める。

附　則

この規程は、2006 年 7 月 1 日から施行する。

2010 年 6 月 14 日　印刷
2010 年 6 月 14 日　発行

南山大学人類学博物館年報　2009 年度

編集・発行人　南山大学人類学博物館
466-8673　名古屋市昭和区山里町 18
phone　052（832）3111　内線 5223
印刷　株式会社ウエルオン
460-0007　名古屋市中区新栄 3-21-31
℡　052（732）2227

NANZAN
UNIVERSITY